

◆胃がんリスク簡易検査法（ABC分類）のご案内◆

当院では胃がんになりやすいリスクの早期発見を目的として、採血検査による胃がんリスク簡易検査法（ABC分類）を実施しております。

なお、当検査は簡易検査のため、受診者の状態により検査結果が正確に判断されない可能性もありますので、検査結果だけをもって、健康に関するリスクを判断するのではなく、胃がんになりやすいリスクの一つの指標としてご活用ください。

- ◆ 胃がんにはピロリ菌感染が深くかかわっています。ピロリ菌感染のない人から胃がんが発生することはごくまれです。また、ピロリ菌感染によって胃粘膜の萎縮が進むほど、胃がんが発生しやすくなります。胃がんリスク簡易検査法（ABC分類）とは、ピロリ菌感染の有無と胃粘膜萎縮の程度（血清ペプシノゲン値）を測定し、胃がんになりやすい状態かどうかをA～Dの4群に分類する検診法です。
- ◆ 胃がんリスク簡易検査法（ABC分類）の結果は、胃がんを確定したり、胃がんにならないことを保証したりするものではありません。胃がんになる危険度を分類するものです。精密検査や健康診断としての内視鏡検査の必要性はご自身で判断いただくことになります。一般的にピロリ菌に感染して胃粘膜に萎縮のある方には、胃がんの存在を確かめる精密検査（内視鏡検査等）が推奨されます。また、ピロリ菌感染のない胃粘膜が健康な方であれば、胃がんに関しては頻回の精密検査は不要とされており、今後の人間ドック等での内視鏡検査の実施の可否や実施間隔の指標を得ることができます。

注意：胃の病気を治療中の方、胃切除後の方、胃酸を抑える薬を服用中の方、腎不全の方、ピロリ菌除菌治療を受けた方は、検査結果が正確に判定されない可能性が高いとされていますので推奨されていません。

ABC分類	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌	－	＋	＋	－
ペプシノゲン値	－	－	＋	＋
胃の健康度	健康的な胃粘膜。	消化性潰瘍に注意。 少数ながら胃がん 発生の可能性もある。	慢性萎縮性胃炎。 胃がん発生の可能性 がある。	胃粘膜萎縮が進ん でいる。 胃がん発生のハイ リスク。
年間の 胃がん発生頻度	ほぼゼロ	1000人に1人	500人に1人	80人に1人
ピロリ菌除菌	不要	必要	必要	不要
ABC検診後の 管理・対処法	管理対象から除外。	必ずピロリ菌除菌。 除菌前後に内視鏡検 査。	ピロリ菌除菌の徹底。 定期的に内視鏡検査。	毎年の内視鏡検査。
判定後内視鏡検査	不要※	必要	必要	必要
判定後内視鏡検査 後内視鏡検査間隔	5年に1回	2～3年に1回	毎年	毎年

※自覚症状のある方、また過去5年以内に内視鏡検査を受けていない方は必要。

1. 検査項目 採血検査（胃がんリスク簡易検査法（ABC分類））
2. 検査結果 「胃の健康度ABC検診 検査結果チャート」を、2～3週間以内に郵送いたします。
3. 申し込み 事前予約（ドック受診日10日前までにドック健診センターへお申し込みください）